

【用語】 柏倉・三夜沢―ともに勢多郡宮城村 進納―すすめ納める、
たてまつること 武運―武士としての運命 長久―長く久しいこと、
永久 丹精―真心を込めること

【解説】 天正十年（一五八二）六月、滝川一益との神流川合戦で勝利した小田原の北条氏は、ひきつづき北上して勢力を拡大し、翌年九月には北条高広を攻めて厩橋城を没収した。このため、敗れた高広は大胡城へ退去することになった。この時、大胡には北条氏一族の大胡高繁が在城していた。高繁に先行する大胡氏は秀郷流藤原氏の系譜を引き、赤城南面の有力武士の中心となった一族で、領内にある三夜沢の赤城神社を崇敬した。この神社は二之宮の赤城神社の山宮で、ここには東宮社家の奈良原氏と西宮社家の真隅田氏が居住していた。そして両社家の活動によって赤城信仰がますます広まり、上杉憲政や北条高広など多くの戦国武将たちも武神として祈願し、また願文を寄せた。

この文書は、天正十三年八月、大胡城主の大胡高繁が神主奈良原紀伊守に柏倉郷内の九貫文の地を寄進し、武運長久や大胡城の安全祈願を命じたものであるが、これに先立ち同年七月、神社への守護不入も認めるなど、手厚い保護を行っている。以後、高繁は北条氏の武将として天正十八年まで大胡に在城した。